

女性・母親・会社員の視点から小平の“未来”を創造します！



竹井 よこ通信

小平市議会議員 竹井ようこ 会派 フォーラム小平

12・13合併号
(2017年8月発行)

竹井ようこ後援会
〒187-0041 小平市美園町1-1-15
TEL/FAX: 042-207-1232
E-mail: info@takeiyoko.com
公式HP: <http://takeiyoko.com/>

一期目の議員活動も折り返し地点を迎えました。
この2年一歩ずつではありますが、市民の皆様のご要望を着実に形にすることができました。これまで培った経験をこれからの2年にしっかり活かし、市民の皆様のお役に立てるように努力してまいりますので、是非ご要望をお寄せください。



<http://www.discussvision.net/kodairasi/2.html>

◆ 3月定例議会報告 ◆

一般質問において、以下3点質問しました。

1. 働く世代を最大限に支援する保育行政の実現に向けて

【質問①】

認可保育園と認証保育所の保育料の差は？

【回答①】

認証保育所の保育料は認可保育園よりも高い？安い？ ＜認証保育所の保育料を月額4万円(平均値)とした場合＞	
年収360～680万円の世帯	16,600円高い～3,600円安い
年収770万円以上の世帯	8,300円～15,300円安い

＜認証保育所＞
東京都独自の設置基準による施設

＜認可保育園＞
国の設置基準による施設



一般的に認証保育所の保育料が高く、認可保育園は安いという認識が流布しているのを確認しました。世帯年収が高いほど、認証保育所の方が安い傾向にあることを確認しました。

延長保育料も含めた全体額として差分を縮小していくよう要請しました。

【質問②】

認可保育園の待機児童を対象に、待機となっている間の救済として、認可保育園の保育料と同額で保育士を派遣する居宅訪問型保育事業を開始してはどうか？

【回答②】

地域型保育に軸足を移しているところなので、研究していく。

【質問③】

保育園の予約制を導入してはどうか？

比較的入園が容易なゼロ歳児で入園させようと育児休職期間を短く切り上げるケースが多い。

入園が予約できれば、育児休職を1年間しっかり取れる。「保活」が不要になれば、第2子以降を考える余裕も出て、ひいては少子化対策になる。



「保活」は今、かなり熾烈です。

子どもにとっての保育環境を考える前に、まず「入れるかどうか」で悩むことがやるせない、頑張っているのに所得が増えるほど入園しづらい。入園不承諾通知を受け取った時の絶望感…私の元にも様々な訴えを頂きます。頑張っている方に「安心して産んでください」と言えるような保育行政にしていきたいと強く思います。

【回答③】

例えば、10月生まれの子どもを1歳になった10月から預かる予約を受けた場合、年度当初の4月からその子の枠を10月まで確保しておく必要があり、待機児童が依然という現状(右記 **データ** 参照)においては、難しい。

データ	
保育園待機児童 (4月1日現在)	
0歳	32名
1歳	40名
2歳	12名
3歳	5名
合計	89名

1歳になった10月から次の4月までの間を**居宅訪問型**保育事業で対応すれば、保育園の枠を空けておく必要はないと考えます。

引き続き、待機児童の解消とあわせて訴えていきます。

2. 市長、部長のイクボス宣言(※1)で 小平市からライフ・ワーク・バランス(※2)を推進しよう

【質問】

市長や部長がイクボス宣言をし、市が率先して、ライフ・ワーク・バランスを重視した働きやすい環境を整えることで、市内企業や市民への啓発となり、社会の意識改革につながる。

小平市の男女共同参画社会の実現に向けた取り組みのアピールともなることから、イクボス宣言してはどうか。

【回答】

職員のライフ・ワーク・バランスや女性職員活躍の推進に向け、まずは**私(市長)からイクボス宣言をします。**

イクボス宣言を促したのは2015年9月議会に続いて2回目です。前回の「今のところ考えていない」から大きく変わり、市長が力強く宣言。「イクボス宣言」を機に、より実効性のある施策を期待します。

※1「イクボス」とは、部下・スタッフのライフとワークの両立を考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司(経営者・管理職)のこと。

※2従来「ワーク・ライフ・バランス」と呼ばれていたが、生活が第一ということで「ライフ」を先につけることも多い。



市報こだいら
平成29年3月20日版より



3. 乳がん検診の結果通知で高濃度乳腺について知らせるべき

【質問】

高濃度乳腺の場合、マンモグラフィでは正しく診断できず、がんを見落とす可能性があることが問題。診断結果通知の際、高濃度乳腺であることを伝えるべきではないか。

【回答】

国の技術指針に従い高濃度乳腺であった場合においても、その結果は異常なしに含め、別途記載はしていない。表示の必要性については情報を収集し、研究していく。

まずは、高濃度乳腺がマンモグラフィに映りにくいという事実の広報に努める。

乳がんは、女性のがんで罹患率が最も高く、生涯のうちに乳がんになる女性の割合は、50年前の50人に1人対して、2010年には12人に1人に増加。また、乳がんの発生は、働き盛り40～50歳代が最も多い。早期発見により適切な治療を受ければ予後の良いがんです。

また、日本人には高濃度乳腺が多く、その5割～8割がマンモグラフィでは映りにくいとの報道もあります。女性は、自分が高濃度乳腺であるかどうかを知っておく必要があると考え、市の乳がん検診受検者に個別に通知することを要望しました。

◆ 6月定例議会報告 ◆

一般質問において、以下2点質問しました。

1. 安心・安全の担い手である消防団のさらなる充実に向けて

【質問】

市では現在148名が消防団員として活躍している。定員より若干少ないこと、また定員数そのものに対する考え方、女性団員がいないことや若い世代の応募拡大などの課題についてどのように考えているのか？

【回答】

消防団の力は重要であり、強化をしていく必要があると考える。

現在被雇用者が40%を占めていることから、事業者との協力体制を構築し、今後は機能別消防団を組織するなど消防力の増強を図りたい。

また、地域の防災力強化応急手当の普及等で女性団員の活躍が期待できる。

2. 市政情報を市民に確実に届けるために

【質問】

市民が市の情報を得る手段として、「市報こだら」と答える人が最も多く、70歳以上では約95%が市報から情報を得ている。

市報をより多くの市民に届けるための施策、ならびに市報を読まない若い世代（20代の約70%が読まないと回答）に対する情報提供の考え方は？

【回答】

より多くの方に市報を読んでいただける方法について経費面の検証を含め検討していく。

また、ホームページについては、高齢者、障がい者・・・誰もが支障なく利用できるよう改善のリニューアルを予定している。

さらには、災害時の迅速かつ継続的な情報伝達手段についても確保していく。

全国的には**消防団員**の数が減少している中で、女性消防団員の数は増えています。

消火・救助活動でなくとも、防災・減災の啓発活動や避難所での弱者のケアなど活躍の場は多いのですが、これまで小平市では女性からの応募を承諾してこなかった経緯があり、体制の見直しを要望しました。

また、定員数については、50年来同じです。明確に増員するという回答は得られませんが、今後の見直しに期待したいと思います。

市報の発行部数は、現在、全戸数の80%程度であり、新聞折り込みで配布されているのは全戸数の66%程度です。市報は公共施設には置いてありますが、誰しもが受取に行けるものではありません。

依頼すれば個別配送も行っていますが、積極的に勧奨していないこともあり、知らない市民が多いのが現状です。これについては転入時など窓口での声掛けを依頼しました。

また、インターネットにアクセスできる世代にとって、SNSは重要な情報源です。本年度には市のフェイスブックが立ち上がります。（本件2015年6月一般質問で言及）

また、市が実施している多種多様な調査は、封書郵送による紙のアンケートのため、コストがかかる上に特に若い世代の返答率が芳しくありません。

QRコードをつけてスマートフォンで回答できるなどの工夫を要望しました。



小平市消防団
規律訓練の様相

活動記

2月～6月の主な活動(順不同)

【子育てナンバーワンのまちへ】

春のふたばフェス、一中・五小運動会、学童クラブ父母連絡会、だれでもワークショップ10年の検証、十四小・一中卒業式・入学式、三中・六中吹奏楽部定演、オープンカフェふたば（社会的養護×地域）、よるカフェふたば（子どもにとって学びとは）、わくわく実験教室（十四小青少対）、子ども食堂、上宿小お餅つき、よさこいスクールダンスフェスティバル、子どもの貧困議連

【ワークライフバランスが実現できるまちへ】

「女と男の市民活動」～発表と交流、リワークプログラム研修会、春季生活闘争を成功させる連合三多摩の集い、「話してみよう！私にとって働くということ」、NTT労組コミュニケーションズ本部ACT分会働き方セミナー、「ライドシェアを考える」、ヤマト運輸労組埼京支部

【高齢者、障がい者を孤独にしないまちへ】

「あなたにも貧困のリスクがある」講演会、小平リハビリ勉強会、サタデーひだまり、ともにネット総会、小平手をつなぐ親の会総会、小平肢体不自由児者父母の会総会、高齢者への自治会対応と配慮についての意見交換会、小平まちづくり研究所「医療と介護の連携」、リズム工房・みんなの家お花見

【ICTの活用で人と人をつなぐまちへ】

日野市役所オープンデータ視察

【グローバル人材が育つまち、若者が活躍できるまちへ】

ハートピア総会・学習会、まちでたのしむ5、東京2020フラッグツアーセレモニー、Child Issue Seminar（LGBT、自殺問題）、インターンとともに都議会傍聴、国際パティシエ調理師専門学校文化祭

【防災、安心安全】

消防団規律訓練、総合水防訓練、忘れない3.11展、議員研修会「地域防災と災害時の議会、議員の役割」、交通安全対策協議会

【にぎわいのあるまちづくり、環境、その他】

平柳田中美術館内覧会、みんなの集い（NTT労組退職者の会）、住宅デー、熟年いきいき会おしゃべりサロン・講演会、シニアソフトボール大会、小平駅前神社例大祭、ごみゼロフリーマーケット、市民活動ネットワーク総会、逗子コミュニティパーク（逗子市長との対談）、小平商工会通常総大会、連合三多摩政策実現総決起集会、なかまちテラスまつり、グリーンフェスティバル、小平料飲食組合総会、バスとタクシーの広場、市民と議会の意見交換会、小平美術会春の会員展、三多摩メーデー、運輸労連東京意見交換会、商工会女性部総会、こもれびの足湯10周年、連合東京「地域政策を実現する会」、小平都市計画道路3.3.3号線小川町一丁目区間開通式、小平商工会主催こだいらサミット、料飲食同業組合新年会、関東旅客自動車交通労働組合連合会旗開き、憲法カフェ、市長選挙公開討論会、連合東京セミナー

<選挙応援>

小平市長選挙 小林正則候補応援
東京都議会議員選挙 斉藤あつし候補応援



忘れない
3.11展

東京2020 フラッグツアー

大林素子さん
（小平市観光
まちづくり大使）・
インターン学生と



竹井ようこプロフィール

小平市仲町在住

【略歴】

1966年 1月28日 滋賀県生まれ 名古屋育ち
名古屋市立菊里高校卒業

南山大学外国語学部英米科卒業

1988年 4月 日本電信電話(株)入社
国際部などで業務経験を積む

1991年 4月 (株)情報通信総合研究所出向
Didier & Associates法律事務所(ハルバー)派遣
欧州各国での情報通信政策について調査・分析

1994年 6月～98年 9月 出産・育児のため休業等
職場復帰後は育児に仕事に多忙な日々を過ごす

1999年 7月 NTTコミュニケーションズ(株)
情報通信の最前線で企画・法務等の業務に従事

2015年 4月 小平市議会議員選挙にて初当選

家族：夫、長男（大学生）、長女（大学生）柴犬（♀）

所属委員会等

総務常任委員会

広聴広報特別委員会（副委員長）

公共施設マネジメント調査特別委員会

湖南衛生組合議会（議長）



フェイスブックは
「竹井ようこ」で検索！
竹井ようこホームページ

<http://takeiyoko.com/>